

これからのまちづくり委員会の予定

平成18年度からの2年間は、高砂地区開発協議会の下部組織として「まちづくり委員会」を立ち上げ、まち歩きや事例視察などを通じて、地域提案型の「まちづくり基本構想」を作成します。今年度は、昨年度に作成した「まちづくり基本方針(案)」を踏まえ、まちづくり基本構想の考え方について取りまとめる予定です。7月に第1回(高砂駅周辺地区の現況と位置づけ)、9月に第2回(まち歩き)を開催しました。

今後の予定は以下のとおりです。

平成18年11月頃

第3回委員会(問題点・課題の整理)

平成18年12月頃

第4回委員会(まちの現状分析)

平成19年1月頃

第5回委員会(全体のまちづくりの考え方①、
来年度の検討組織について)

平成19年3月頃

第6回委員会(全体のまちづくりの考え方②、
来年度の検討組織について)



第2回まちづくり委員会の様子

高砂駅南側エレベーター設置について 要請を行いました。

今年の10月24日、京成電鉄社長宛に高砂駅南側にもエレベーターを設置する旨の要望書を提出しました。これは、鉄道立体化までの暫定措置として、地域の方々が少しでも安全かつ快適に生活できるように、バリアフリー化や開かずの踏切対策の一環とするものです。



京成電鉄への要請

まちづくりアンケートにご協力ください。

*「まちづくり基本構想(案)」に地域の皆さんの意見を反映させるため、高砂駅周辺(高砂2丁目～5丁目)にお住まいの方々を対象とした“まちづくりアンケート”調査を行います。

○対象地域：高砂2丁目～5丁目

○実施期間：11月中旬～12月中旬(予定)

*アンケート調査票については、町会・自治会などを通じて配布されますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

高砂地区開発協議会ニュース

第2号 平成18年11月

発行元：高砂地区開発協議会

会長 半沢 勝正

協力：葛飾区都市整備部

電話：5654-8339

京成高砂駅から江戸川駅間の京成本線は、踏切による渋滞の発生や鉄道による地域分断等によって、安全で住みよいまちづくりに大きな支障となっています。また、平成22年度に予定されている成田新高速鉄道の開業に伴う影響も懸念されています。

こうした問題の抜本的解決には、1日も早く京成本線の鉄道立体化を実現していくことが不可欠です。このため、高砂周辺町会と商店会9団体で構成する「高砂地区開発協議会」では、京成本線立体化の早期実現に向け、要請活動やまちづくり勉強会など様々な取り組みを行っています。

高砂地区開発協議会会長 半沢 勝正

京成本線(京成高砂駅～江戸川駅間)の鉄道立体化に向けた要請活動を行いました。

今年の8月には、京成本線立体化の早期実現に向けて、葛飾・江戸川両区長と共に、国土交通省並びに東京都へ要請活動を行い、地域住民約13万人の署名と要望書を提出してきました。



国土交通省への要請



東京都への要請

鉄道立体化に向けたこれまでの取組み

平成14年 2月 発起人会を開催。高砂地区開発協議会が9団体にて発足。

6月 石原都知事の高砂駅周辺踏切視察を機に、踏切解消の要望書を手渡す。

8月 高砂中学校において踏切解消に向けた第1回目の総決起大会を開催。

平成16年10月 第2回目の総決起大会を開催。

平成17年 9月 江戸川区北小岩地域と一体となった京成本線立体化促進住民協議会を設立。

10月 京成本線立体化を促進する住民決起大会を開催。

平成18年 8月 「京成本線連続立体交差化事業の早期実現のための要望書」と約13万名の署名を国土交通省、東京都に提出。

(高砂地区開発協議会とは)

平成 14 年 2 月に京成高砂駅周辺の町会、自治会及び商店会など 9 団体により発足しました。これまで、高砂駅周辺の踏切の改善や連続立体交差事業の早期実現化を目指して活動しています。

(京成本線立体化促進住民協議会とは)

平成 17 年 9 月に高砂地区開発協議会と北小岩地域の町会、自治会及び商店街の代表者の方々と共同で設立しました。同年 10 月に「京成本線立体化を促進する住民決起大会」を開催し、翌年 8 月には国土交通省、東京都へ要請活動を行いました。

高砂駅周辺まちづくりについて

京成本線（京成高砂駅～江戸川駅間）については、「踏切対策基本方針（平成 16 年 6 月、東京都）」における「鉄道立体化の検討対象区間」として抽出された都内 20 区間のひとつに位置づけられています。

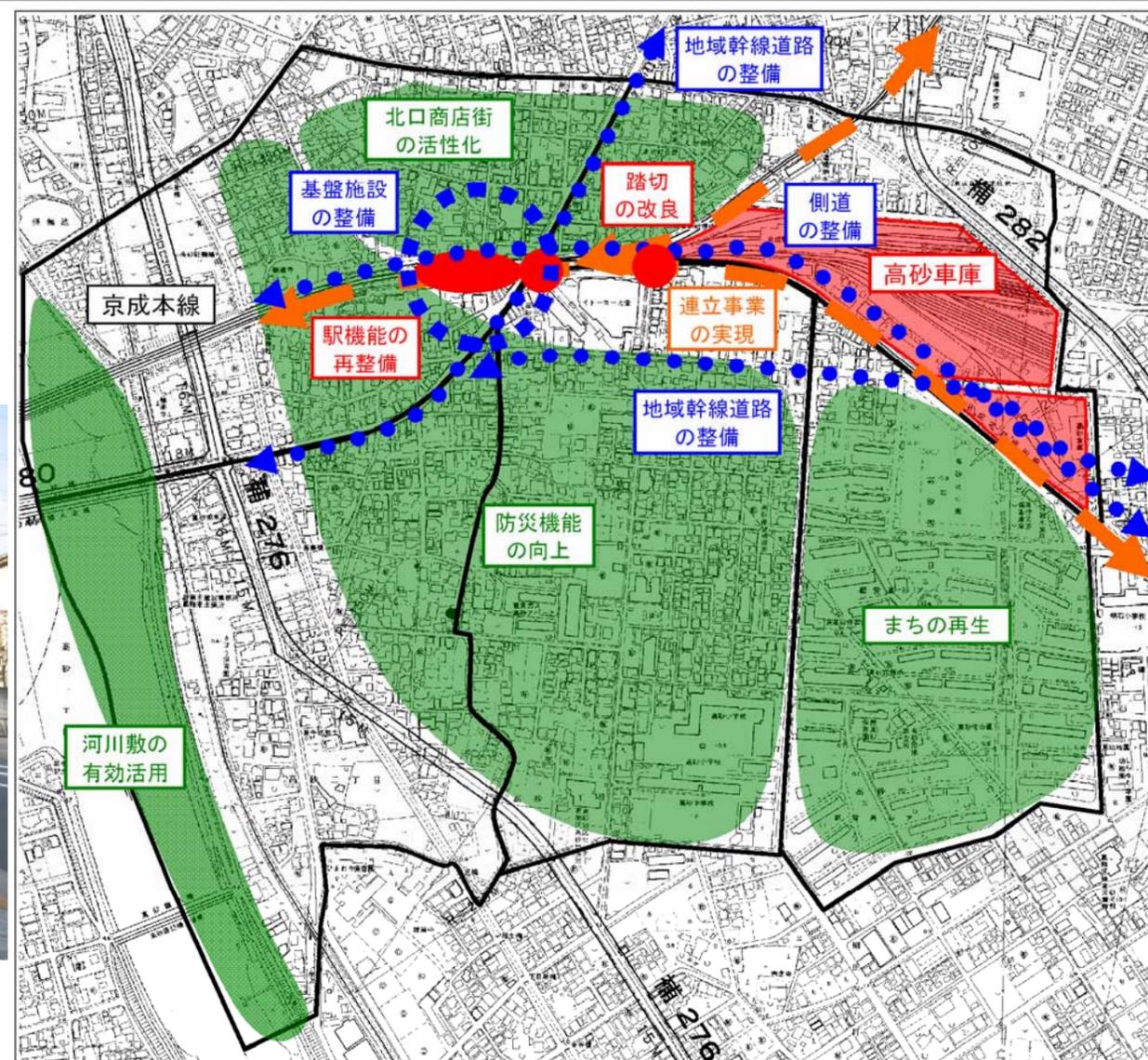
一方、連続立体交差事業の採択基準（事業を実施する区間を決める基準）には、「まちづくりのうえで効果があること」がうたわれており、事業採択に向けては、膨大な事業費に見合うまちづくりの効果が厳しく問われます。全国数ある事業候補地の中から高砂地域が選ばれるためには、地元の熱意とともに事業効果を最大限に引き出す総合的なまちづくりが必要となります。

昨年度の取り組みについて

高砂地区開発協議会では、京成本線（京成高砂駅～江戸川駅間）の連続立体交差事業と併せた一体的な街づくりを推進するため、平成 17 年度に計 5 回のまちづくり勉強会を開催し、まち歩きやまちの問題点・課題の整理を踏まえた上で地域提案型の「まちづくり基本方針（案）」（右図）を作成しました。



昨年のまち歩きの様子



【鉄道関連】

- 連続立体交差事業の早期事業化を実現し、踏切の解消と駅機能の充実を図ります。
- 連続立体交差事業の実現に際し、高砂車庫用地について検討します。

【道路関連】

- 連立事業に合わせ、駅前広場や広場へのアクセス道路を整備します。
- 連立事業に合わせ、道路ネットワークを充実させます。
- 連立事業に合わせ、側道を整備します。
- 都市計画道路の整備に伴って通過交通が排除できることから、駅周辺の道路は自転車や歩行者にやさしい道路とします。

【まちづくり関連】

- 細街路が多いまたは公園が少ない地域では、緊急車両が通行できる道路や公園などを整備することで防災機能の向上を図ります。
- 空き店舗が多くなっている北口商店街では、商店街の活性化につながるまちづくりについて検討します。
- 居住人口が激減し、老朽化が問題となっている高砂団地では、地域全体のまちづくりの視点から団地の建て替え計画を進めます。
- 中川・新中川河川敷へアクセス出来るようにします。